



## ●全国大会でドイツの回転混色紹介

2020年秋にオンライン講座でご紹介したドイツの色ゴマを、来る全国大会にて「色彩教材研究会ワークショップ；色独楽で遊ぶー回転混色の研究史と新たな色彩教育の可能性ーとして体験いただけることになりました。

ドレスデン大学建築学部附属「色彩コレクション」創設者エクハルト・ベンディン氏の設計した18枚の回転盤を、オリジナルの手びねりゴマで回しながら、観察される視覚現象を解説とともに確認します。

回転盤は18セット用意しておりますので、少人数で体験していただけます。時間は両日とも13:40～14:50の予定です。

タイミングの合わない方も、ベンディンゴマは扇風機を改造した各種回転装置などとともに会期中、展示しておりますので、ぜひお立ち寄りくださいませ。(山根千明)



## ●城一夫名誉会員を偲んでー 10

城一夫編著『色彩博物館』

明現社発行 3,300円

1994年10月25日発行

「色彩博物館」は「色彩の宇宙誌」の姉妹編である。前書が色彩文化を歴史的に縦に考察したのに対して、本書は色彩文化を生活の諸形態の中で考え、その中での色の役割を述べた書籍である。我々の生活には色のないものは殆どない。般若心経の「色」つまり「すべて存在するもの」としての意味を重ねて生活文化の中での色の役割を述べている。

本書の目次は風土(「と色彩」、以下略)、国旗、宗教、身体、化粧、動物、植物、鉱物、衣服、建築、陶磁器、食物、資格言語としての色彩、絵画、文学、映画、歌舞伎、生活デザイン、の18章より成る。

多岐にわたる章立ての中で、色の役割を、文化的に偏りのない視点で、広く深く述べている。その中で映画・歌舞伎・絵画・文学を一つの章として取り上げる、城先生らしい項目のつくり方に芸術への深い思いを感じることが出来る。

データだけでなく各所に美しい詩が散りばめられ、色の持つ力を体感できる一冊である。

(Tamae/玉澤珠江)

## ●大辞泉ひろいよみ 21ーい・う

**印版・印板**：版木に文字などを彫って印刷すること。また、その版木や印刷物。

**隠蔽色**：動物の体色で、周囲の色彩の中に埋没してしまい、他の動物から気づかれにくい効果をもつと考えられるもの。ヒョウ・トラの斑紋など。保護色。

**陰陽五行説**：中国の戦国時代に発生した陰陽説と五行説とが漢代に結びついて一体化した説。五行の木・火は陽、金・水は陰、土はその中間であるとし、これらの消長を観察することによって、天地の変異、人間界の吉凶など万象を説明する。

★う

**上白**：襲の色目で、表を白にしたもの。

**上姿**：公家が殿上にいるときの姿。直衣を着用した姿。逆は下姿。

**浮世絵**：江戸時代の風俗、特に遊里・遊女・俳優などを描いた絵。肉筆画と木版画があり、特に版画は菱川師宣に始まり、鈴木春信らによる多色刷りの錦絵技法の出現によって大いに発展した。代表的作者として喜多川歌麿・安藤広重・葛飾北斎などが有名。

**浮世小紋**：当世風の小紋。特に江戸時代、貞享・元禄ごろに流行した型紙小紋染めの文様。

\*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)